

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 大垣 2階		
所在地	岐阜県大垣市市和町15番地		
自己評価作成日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	令和4年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援介護、水分・食事・運動・排泄の4つの支援から健康状態の維持、向上や利用者様の夢を叶えるための取り組みを取り組んでいます。
貧血の方に対して、鉄分を入れた食事やBMIを意識して食事量の計算、下剤などを無くすために、毎日の運動の実施等、4つを基本に個々に合わせて支援しています。
寝たきりの方が、車椅子に座って桜を見に行くことができたり、失敗の回数が半分以下になったり、しっかりと数字で表す事もでき、結果が出てきています。入居時に精神薬を服用していた方も1か月後には、すべて除薬出来ている。その人らしさを引き出せるように、支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。
ホームを挙げて、法人が推進する「自立支援介護」を実践している。特に水分補給に力を入れて取り組んでおり、既に様々な改善例や良好な結果を出している。この取組みをホーム内だけに留めず、ホームページでも紹介している。
コロナ禍によって外出や外食の支援が制約を受けているが、散歩は日常的に行われている。コロナの感染状況が緩んだ春には、利用者を分散して花見に出かけた。お弁当は無しであったが、久しぶりの外出で解放感を味わった。外食に替え、出前を取ったりテイクアウトで代用したりしている。本職のパンシエをホームに呼び、利用者参加のおやつ(お饅頭)作りを楽しんだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した、暮らし、関係性の持続。地域生活を継続を支えるための支援を理念を柱に置き、毎日朝、夕礼において職員全員で唱和し唱和し、実践している。	理念の延長線上の取組みとして、水分摂取を重視した自立支援介護に取り組んでいる。この自立支援の取組みをホーム内だけに留めることなく、ホームページでも紹介している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物などに出掛けている。地域の催し物には、希望に添ってお誘いしている。コロナ禍で外出自体が難しい為、ブログなどホームページを充実させ、QRコードを関係各所へ配布している。	コロナ禍によって積極的な地域交流ができない状況ではあるが、利用者や職員を気遣って、近隣の住人がホーム周辺の草むしりしてくれた。お寺の住職からは、庭に咲いたバラの花の贈り物があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に関わり、認知症ケアの啓発に努めている。通信などホームを紹介した物を地域に配信した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり、郵送での対応となる。返信封筒やお電話で意見や質問への対応を実施。	過去1年間の6回の運営推進会議は、すべて書面開催となった。ホームの運営状況を報告する議事録を作成し、会議メンバーに送付している。返信用の封筒を同封し、意見の収集にも努めている。	書面開催の場合、議事録の報告事項の中に、「目標達成計画の進捗報告」を加えることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を手渡しにて報告のために訪問しています。問題点があれば、直接訪問し面会をしています。情報はメールにて提供して頂くようになっています。	コロナ下ではあるが、運営推進会議の議事録を持参したり、各種報告等のために市役所の担当課を訪問している。研修案内等、市からはメールを使って情報提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待廃止委員会やチェックシートを実施しての面談等、意識できる環境を作っている。	3ヶ月に1度、不適切なケアのチェックシートを基に、職員が話し合い(委員会)を行っている。身体拘束に関する研修は、入職時研修に加え年間1回、管理者による研修がある。法人による動画配信の研修も実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修やチェックシートの活用、委員会なども実施しており、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で必ず毎年研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料についての起こりうるトラブルや、重度化について対応方針、医療連携体制など誤生じないように、丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、月1回の通信や様子を知らせる手紙などで、又面会時には意見、要望など積極的に聞くように努めています。コロナ禍による面会の制限時は、電話連絡を不定期ではあるが実施している。	家族面会の機会に、意見や要望を聞き取っている。現在、事前予約の上、相談室を使用して30分を限度とした家族面会を認めている。その機会に、利用者と食事を摂る家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議が職員の意見、要望を聞く機会なり、日頃よりスタッフさりげなく考えを聞くようにしている。月2回面談を実施している。	毎月2回、管理者と職員との個別面談があり、ホーム運営や就労環境等に関する職員意見を聞き取っている。毎月、ホーム会議とユニット会議があり、意見集約や情報共有が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より、スタッフの様子から聞くようにしている年1度の人事考課を行い給与に反映し、労働意欲の向上に努めている。アンケートにより業務改善も行ってきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修への参加促しや資格支援制度の周知、介護福祉士合格を目指しての勉強会の開催もおこなっている。本社主体の研修も開催があり、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、居宅や地域包括、病院の相談員への訪問実施。ホームの状況などをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントや生活状況を把握に努めている。連絡ノートの活用し、本人状況の変化などをスタッフ間で、共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申込みの際に緊急性があるニーズなど把握しておく、当ホームでどのような対応が出来るのか説明しておく。相談事など、気軽に声をかけて頂くよう面会時声をかけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を把握し必要なサービスは何か、スタッフの意見も聞き社会資源の活用も視野に入れるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持って対応する。ご本人の残存機能や生活歴などを尊重し、共同して生活できる場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族として、関係性すら忘れられてしまう寂しさを現実のものとして受け容れられるのに時間を要し絆を大切にしながら支援させてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に一緒にドライブなどして行くようにしている友人知人には、ご家族を通じて来訪していただくように心がけている。Zoomでの面会や携帯電話での通話なども支援している。	コロナの感染状況を見ながら、馴染みの場所(神社等)へドライブしている。編み物が趣味の利用者は、ホームの長いす用に大きな敷物を編んでくれた。活け花が得意な利用者は、ホームや居室に花を飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で交流できる場面作りをしています。会話が弾んで楽しく和んでいる様子が見受けられる事もあるが、トラブルになる時もある。仲を取り持つようスタッフが支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になると、その後の関わりが断ち切れる事がある。一部の方の経過を確認をしている事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	遠方のご家族様との面会方法やコロナ禍での防疫に注意を払い対面での面会。買い物などの要望に1対1で外出日を作るなど、対応している。	約半数の利用者は自らの思いを表出できる。「大きな編み物を作りたい」との思いがある利用者には、介護計画に繋げて取り組むこととした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年々身心の状態が変わって行く中で、経過の把握し、出来る事、出来ない事を見極め出来る事を最大限に引き出していくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズムを理解し、行動、言動、表情などからご本人の現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意向など反映するようになっている。モニタリングやカンファレンスを行っている。	「大きな編み物を作りたい」との利用者の思いを叶えるため、6ヶ月の長期目標を掲げて支援した。身体や精神的な部分(気持ち)のフォローを行い、6ヶ月で見事な長いす用の敷物が完成した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が利用者様の状態の変化に気づいた時に介護記録等にし記載し、情報の共有につとめる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況に応じて、通院等の支援、その人らしさを引き出すためのケアプランに組み込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長さんなど、火災等折には援助しまよ、「何でも言ってくださいよ。」とさせていただきます。地域の会合なども、気軽に誘って下さっています。ホームとしても何か役に立つ事がないか模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望されている病院に受診をしている。提携医以外のご家族様対応で行っている。不可能な場合はスタッフが付き添い受診している。主治医と医療連携を行っている。	すべての利用者がホーム協力医をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療を受けている。他科の受診は家族対応を原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当社社員の看護師による、健康管理の相談・助言・対応を急変時においては、24時間体制で対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握をし、退院後に安心して過ごせるように、病院との情報交換、時にはカンファレンスに参加させてもらったり、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴い事業者が対応できるケアについて、説明を行い同意を取り付けている。	利用開始時に重度化に対する支援の指針を示し、利用者・家族の同意を得ている。ホームでの看取りを望む利用者・家族が多く、今年に入って既に6件の看取りを行った。職員によるエンゼルケア(逝去時ケア)も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修等で学習する機会をもうけている。救急救命講習は年1回全スタッフが受講し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回内1回は夜間想定避難訓練を実施している。火災、地震・水害等、避難経路の確認、避難訓練、消火器の使い方など利用者様と共に実施している。	近くに小規模河川があり、ハザードマップ上では「黄色」の水害警戒地域である。水害想定防災訓練では、ホーム2階への垂直避難を行っている。ホームの食料備蓄3日分は、期限管理を含め法人管理である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修等で、スタッフの意識の向上を図る事とこそが大切に思う。現状確認を図りプライバシーを損ねないように心がけている。	職員の入職日は毎月1日と15日に定められており、入職時研修において「利用者の尊厳」に関する研修を受けている。3ヶ月毎の身体拘束適正化の委員会でも、様々な事例の検討を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や、買物での品選びではスタッフと共に行き自身で選択できるように、働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは作ってあるが、自身のペースに合わせて、対応している。入浴は自身の決定を待たずにスタッフ都合のときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣に見守り支援を行っているが、自己決定できない御利用者さまには、手伝うようにしている。訪問理美容では、要望できる利用者には声がけで促している。また馴染みの美容院にお連れすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど、一緒に行っている。下ごしらえ等、調理補助も個々に合わせて支援している。	調理専任職員を配置し、3食手作りの食事を提供している。外食に出られない代わりに、出前やテイクアウトで代用している。本職のパテシエを呼び、利用者参加のおやつ(お饅頭)作りを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を1500mlを目標に摂取、時にはゼリーなど補うようにしている。利用者様にあわせて、水分量は設定、食べやすいように食事形態で提供している。血液検査の結果からタンパク質の摂取なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内ケアは習慣化しているが声がけで利用者自身で行ってもらっている。義歯の方スタッフが手伝って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	女性の利用者様は特に排泄の失敗を気にしておられる。排泄中には必ずカーテンやドアを閉める配慮が必要。	電子媒体の「ノーティス」(記録支援ソフト)を活用し、利用者個々に合った排泄を支援している。適切な水分補給(自立支援介護の一環)を推進しており、便秘に悩む利用者はほとんどいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日、回数、形状などを確認している。豆乳やかんてんなど、食べ物も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思決定で入浴をしている。「面倒だ」「寒いからかぜを引くから」などと拒否もあるが、入浴剤の工夫や、声かけのタイミングなど個々に合せて行っている。	週に2~3回の入浴を支援している。異性介助の問題はないが、入浴拒否の強い利用者がいる。冬至の時期には、職員が自宅から柚子を持参し、利用者は季節の湯(柚子湯)を楽しむ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、心地よい疲労があるように生活リズムを整える。夜間すぐには眠りにつけず、起きていらっしやる時などは、温かい飲み物や傍に寄り添って気持ちをほぐすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護連絡表に記載の薬ファイルの作成や種類効能や副作用など、把握している。新しく処方された薬などは、連絡ノートに記載しスタッフに周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるように、役割として行ってもらっています。作業後は感謝の声がけし、次に繋がるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日など、日常的に散歩、買物、ドライブなど、出かけている。ご家族様にも一緒に出かけていただいている。	コロナ禍によって外出支援に制約があるが、散歩は日常的に行われている。コロナの感染状況が緩んだ春には、利用者を分散して花見に出かけた。お弁当は無しであったが、久しぶりの外出で解放感を味わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の希望で管理しています。中には、お金を持っていないと不安がられる方もおられ、小額をご家族様了解の下、持ってもらっています。買物のときなどご自身で支払われる事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を持っておられる利用者様は気兼ねなく、ご家族との電話を楽しんでおられます。手紙なども日常的に出せるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは廊下のスペースの広さが自慢です。車椅子2台が悠々と行き違いができ、リビングもゆったりとしたスペースで開放感があり、居心地よい様に危険な物を置かないように配慮している。	コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。この項目のコメントなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫しているわけではないが、自然にリビング集まってきて、くつろいでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの物好みの物など、本人が心地よく過ごせるように工夫している。	コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。この項目のコメントなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意思決定で出来ることは何か、ユニット会議等で検討するようになっている。不安な事があれば、取り除き、力を取り戻せるように支援していくように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101103		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 大垣 1階		
所在地	岐阜県大垣市宝和町15番地		
自己評価作成日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	令和4年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援介護、水分・食事・運動・排泄の4つの支援から健康状態の維持、向上や利用者様の夢を叶えるための取り組みを取り組んでいます。
貧血の方に対して、鉄分を入れた食事やBMIを意識して食事量の計算、下剤などを無くすために、毎日の運動の実施等、4つを基本に個々に合わせて支援しています。
寝たきりの方が、車椅子に座って桜を見に行くことができたり、失敗の回数が半分以下になったり、しっかりと数字で表す事もでき、結果が出てきています。入居時に精神薬を服用していた方も1か月後には、すべて除薬出来ている。その人らしさを引き出せるように、支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した、暮らし、関係性の持続。地域生活を継続を支えるための支援を理念を柱に置き、毎日朝、夕礼において職員全員で唱和し唱和し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物などに出掛けいる。地域での催し物にはご本人の希望に添ってお誘いしている。コロナ禍で外出自体が難しい為、ブログなどホームページを充実させ、QRコードを関係各所へ配布する等している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に関わり、認知症ケアの啓発に努めている。通信などホームを紹介した物を地域に配信した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり、郵送での対応となる。返信封筒やお電話で意見や質問への対応を実施。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を手渡しにて報告のために訪問しています。問題点があれば、直接訪問し面会をしています。情報はメールにて提供して頂くようになっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待廃止委員会やチェックシートを実施しての面談等、意識できる環境を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修やチェックシートの活用、委員会なども実施しており、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で必ず毎年研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料についての起こりうるトラブルや、重度化について対応方針、医療連携体制など誤生じないように、丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、月1回の通信や様子を知らせる手紙などで、又面会時には意見、要望など積極的に聞くように努めています。コロナ禍による面会の制限時は、電話連絡を不定期ではあるが実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議が職員の意見、要望を聞く機会なり、日頃よりスタッフさりげなく考えを聞くようにしている。月2回面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より、スタッフの様子から聞くようにしている年1度の人事考課を行い給与に反映し、労働意欲の向上に努めている。アンケートにより業務改善も行ってきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修への参加促しや資格支援制度の周知、介護福祉士合格を目指しての勉強会の開催もおこなっている。本社主体の研修も開催があり、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、居宅や地域包括、病院の相談員への訪問実施。ホームの状況などをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントや生活状況を把握に努めている。連絡ノートの活用し、本人状況の変化などをスタッフ間で、共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申込みの際に緊急性があるニーズなど把握しておく、当ホームでどのような対応が出来るのか説明しておく。相談事など、気軽に声をかけて頂くよう面会時声をかけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を把握し必要なサービスは何か、スタッフの意見も聞き社会資源の活用も視野に入れるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持って対応する。ご本人の残存機能や生活歴などを尊重し、共同して生活できる場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族として、関係性すら忘れられてしまう寂しさを現実のものと受け容れられるのに時間を要し絆を大切にしながら支援させてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に一緒にドライブなどして行くようにしている友人知人には、ご家族を通じて来訪していただくように心がけている。Zoomでの面会や携帯電話での通話なども支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で交流できる場面作りをしています。会話が弾んで楽しく和んでいる様子が見受けられる事もあるが、トラブルになる時もある。仲を取り持つようスタッフが支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になると、その後の関わりが断ち切れる事がある。一部の方の経過を確認をしている事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	遠方のご家族様との面会方法やコロナ禍での防疫に注意を払い対面での面会。買い物などの要望に1対1で外出日を作るなど、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年々身心の状態が変わって行く中で、経過の把握し、出来る事、出来ない事を見極め出来る事を最大限に引き出していくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活リズムを理解し、行動、言動、表情などからご本人の現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意向など反映するようにしている。モニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が利用者様の状態の変化に気づいた時に介護記録等にし記載し、情報の共有につとめる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況に応じて、通院等の支援、その人らしさを引き出すためのケアプランに組み込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長さんなど、火災等折には援助しまよ、「何でも言ってくださいよ。」とさせていただきます。地域の会合なども、気軽に誘って下さっています。ホームとしても何か役に立つ事がないか模索している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望されている病院に受診をしている。提携医以外にご家族様対応で行っている。不可能な場合はスタッフが付き添い受診している。主治医と医療連携を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当社社員の看護師による、健康管理の相談・助言・対応を急変時においては、24時間体制で対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握をし、退院後に安心して過ごせるように、病院との情報交換、時にはカンファレンスに参加させてもらったり、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴い事業者が対応できるケアについて、説明を行い同意を取り付けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修等で学習する機会をもうけている。救急救命講習は年1回全スタッフが受講し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回内1回は夜間想定避難訓練を実施している。火災、地震・水害等、避難経路の確認、避難訓練、消火器の使い方など利用者様と共に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修等で、スタッフの意識の向上を図る事とこそが大切に思う。現状確認を図りプライバシーを損ねないように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や、買物での品選びではスタッフと共に行き自身で選択できるように、働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは作ってあるが、自身のペースに合わせて、対応している。入浴は自身の決定を待たずにスタッフ都合のときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣に見守り支援を行っているが、自己決定できない御利用者さまには、手伝うようにしている。訪問理美容では、要望できる利用者には声かけで促している。また馴染みの美容院にお連れすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど、一緒に行っている。下ごしらえ等、調理補助も個々に合わせて支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量1500mlを目標に摂取、時にはゼリーなど補うようにしている。利用者様にあわせて、水分量は設定、食べやすい食事形態で提供している。血液検査の結果からタンパク質の摂取なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内ケアは習慣化しているが声かけで利用者自身で行ってもらっている。義歯の方スタッフが手伝って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	女性の利用者様は特に排泄の失敗を気にしておられる。排泄中には必ずカーテンやドアを閉める配慮が必要。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日、回数、形状などを確認している。豆乳やかんてんなど、食べ物も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思決定で入浴をしている。「面倒だ」「寒いからかぜを引くから」などと拒否もあるが、入浴剤の工夫や、声かけのタイミングなど個々に合せて行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、心地よい疲労があるように生活リズムを整える。夜間すぐには眠りにつけず、起きていらっしやる時などは、温かい飲み物や傍に寄り添って気持ちをほぐすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護連絡表に記載の薬ファイルの作成や種類効能や副作用など、把握している。新しく処方された薬などは、連絡ノートに記載しスタッフに周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるように、役割として行ってもらっています。作業後は感謝の声がけし、次に繋がるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日など、日常的に散歩、買物、ドライブなど、出かけている。ご家族様にも一緒に出かけていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の希望で管理しています。中には、お金を持っていないと不安がられる方もおられ、小額をご家族様了解の下、持ってもらっています。買物のときなどご自身で支払われる事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を持っておられる利用者様は気兼ねなく、ご家族との電話を楽しんでおられます。手紙なども日常的に出せるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは廊下のスペースの広さが自慢です。車椅子2台が悠々と行き違いができ、リビングもゆったりとしたスペースで開放感があり、居心地よい様に危険な物を置かないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫しているわけではないが、自然にリビング集まってきて、くつろいでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの物好みの物など、本人が心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意思決定で出来ることは何か、ユニット会議等で検討するようにしている。不安な事があれば、取り除き、力を取り戻せるように支援していくように努めている。		